



正門 さつきの頃 山の手倶楽部 大西 功氏

新たな「ふるさと」桂坂 ― 地域と子ども

新たな「ふるさと」桂坂



この20年の間にこの街に移り住んだ私たちにとって、「ふるさと」といえる場所は、桂坂以外に在るかも知れません。しかし、今この街で幼少期を過ごしている子どもたちにとってこの桂坂は、「ふるさと」として永遠に心の中に存在し続けることだろうと思います。

可憐な花を眺めた公園、自転車を押して登った坂道、西山連峰を望む校庭で過ごした日々、そこで出会った人々とのつながりなど、そのひとコマひとコマは「ふるさと」のあたたかい記憶として子どもたちのその後の人生を支えてくれる確かな拠りどころとなるに違いありません。

この街に育つ子どもたちの「心のふるさと」としての「桂坂」を創り出すために、桂坂では、子どもたちの今と将来とを思いながら、多くの人々の、様々な取り組みが行われています。ほんの一部ですが、ご紹介します。

地域と子ども

学びの拠点 桂坂小学校

樹木の名を持つ四つの門

20周年を迎えた小学校の樹木はとてまたくましく育っています。創立当時は広い校庭のあちらこちらに植えられた幼い木々に水をやるのが大変な作業だったとか。今ではどの木々も立派な根をはり豊かな美しい緑の葉を揺らして、子どもたちを見守ってくれています。

今春、小学校の四つの門に、植えられている樹木にちなんで「呼び名」が付けられました。

2004（平成16）年に桂坂教育後援会から寄贈された電気施錠式の南門は「桜の門」、すぐ近くの西側の門は「梅の門」、子どもたちが登校する階段の上の門は「櫻けやきの門」、そして運動場の北東、うしどら良の隅にある門には、20年度の3月に定年退職された栗田博校長先生が小さな南天の木を植えられ「南天の門」と命名されました。昔から「難を転ず」と読み換え厄除けに用いられていることから、子どもたちを守ってほしいという願いが込められました。

クローバーランドに輝く生命

「桜の門」をくぐると正面にハーブの香りただよふ美しい花壇が目飛び込んできます。社会福祉協議会「花の輪の会」の皆さんが、子どもたちからデザインを募り作られた花壇です。四季を通して花が絶えないように育てられ、子どもたちだけでなく小学校を訪れるすべての人たちの心を和ませています。

その横には一見ただの草むらに見える広場と、ビオトープがあります。ビオトープとはもともとドイツ語で「生き物たちがいきているところ」というぐらいの意味ですが、ここには見知らぬ生物がすみ、図鑑にもない花が咲きます。必死でバッタを追いかける子どもたち、シロツメクサで首飾りを楽しそうに作っている子どもたち、メダカを大事そうに眺める子どもたち、泥だらけの手で笑いあう子どもたちの声がひびきます。

子どもが子どものままでいられる時間はわずかです。そんな子どもたちを温かく見守ってきてくれたこの素敵なスペースには、まもなく、新校舎の建設が予定されています。新校舎の周囲にはクローバーランドの名残をとどめる風景が作られる計画もあるとか……新たな風景の中でも、子どもの時間はゆっくりと流れ続けることでしょう。



子どもの時間

四年生から届いた手紙

「五月になって 雨がふえました
さいきん イモリもふえました」

「イモリも」の「も」がじつにいい
ほかの生きものにも するどく向かい
自然の世界を ぐいぐい
広げるのが じつにいい



「さいきん」も じつにいい
時間の流れを たしかにとらえ
自然の世界に ぐんぐん
とけこむのが じつにいい

子どものときにしかない
かけがえのない 子どもの時間を
しっかりと 豊かに 生きている

桂坂小学校元校長 角垣健美
桂坂小 PTA 広報誌第50号表紙より

くつろぎの学び舎

桂坂小学校は、市内でも児童数の多い小学校の一つです。この生徒増に、これまで対応してきた大きな校舎ですが、1日の大半を小学校で過ごす子どもにとっては、少人数で、しかも静かに過ごせるちょっとした狭い空間は必要です。

廊下のいたる所にベンチを設置し、また、カーペットの上にコタツを置いたコーナーを設けるなど、リラックスできる場所がたくさんあるのも桂坂小学校に学ぶ子どもたちにとって恵まれた環境のひとつといえます。休み時間や放課後、子どもたちは本を読み、絵を描き、工作、将棋など思い思いに心の和む時間を過ごしています。



「ハートルーム」の役割

普通学級の約6.3%の子どもたちが特別な支援を必要としているという全国の調査結果を踏まえ、平成17年度に文部科学省は、「困り」を感じている子どもたちの早期発見と教育に関わる適切な支援を国の方針として打ち出しました。

桂坂小学校でも、教室で過度の「緊張」や「心の負担」を感じている子どもたちが一時避難的に落ち着ける部屋が、2007（平成19）年に設けられ、「ハートルーム」と名づけられました。専門の先生が常駐するようになり、今まで担任の先生が一人で抱えていた問題も計画的・組織的・継続的に取り組んでいけるようになりました。

子どもが困っている事情を理解し、適切な支援をしていくための拠点として「ハートルーム」の果たす役割はますます重要になってくるでしょう。理解と支援によって、伸びていく芽を育む拠点です。

より充実した図書室をめざして

現在小学校は教室不足のため吹き抜けのオープンスペースを図書室として利用しています。蔵書冊数は約7700冊。毎年の購入図書のほか、桂坂教育後援会からの寄贈図書や、リサイクル本などで少しずつですが、数は増えています。2006（平成18）年からコンピュータ管理されるようになり、図書委員の子どもたちがバーコードを使って、本の貸し出しなどを行っています。

また、放課後は、地域や保護者のボランティアが「図書館応援団」として、本の貸し出しや、図書室の飾りつけ、本の修理や整理などのお手伝いをしています。登録されたボランティアの人たちと子どもたちが笑顔で接しているのもとてもほほえましい光景です。



本の世界へのいざない

P T Aのサークル「本とお話のクラブ」は、本と子どもを結ぶ活動として、毎週1回、昼休みに「読み聞かせ」を行っています。子どもたちにとって、とても心安らぐ楽しい時間となっているようです。

その他に、学年ごとのお話会や、クリスマスのお話会などを行っています。影絵、紙芝居、素話、寸劇などの手法を用いながら「カツラザカのタカラヅ

カ」を自称するお母さんたちが大活躍してくれています。

この他に家庭教育学級として毎年4年生を対象に学校が行っている「ブックトーク」では、地域から講師を招き、たくさんの本の紹介をしてもらっています。

学級文庫や図書室の本棚は今後さらに充実され、子どもたちの心を躍らせ、未知の世界にいざなってくれることでしょう。

コンピュータは各教室1台の時代

桂坂学区10周年に際し、自治連合会から寄贈されたコンピュータは、当時、初期のコンピュータ教育に大きく貢献しました。その後、各教室にパソコンが1台ずつ置かれ、一層充実した情報教育が行われています。

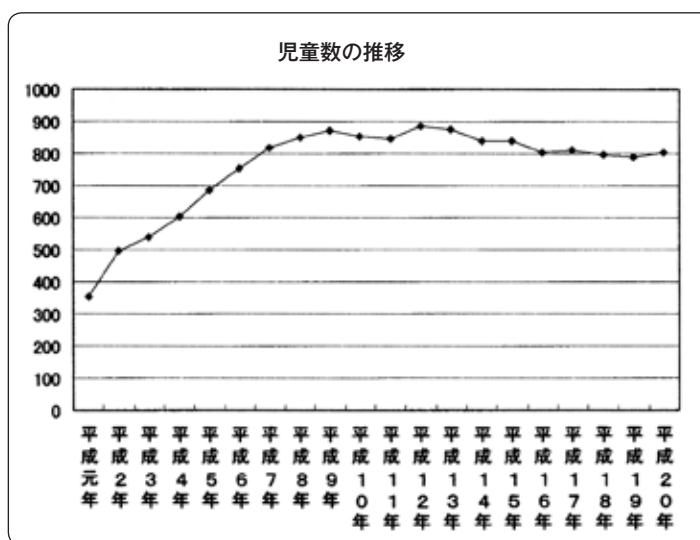
校内LANが活用され、児童会や委員会活動などでも取り入れられるようになりました。たとえばその日の給食にまつわるクイズなどを栄養士の先生から出してもらい、各教室のパソコンから解答を送信し集計するようなこともできます。低学年ではお絵かきソフトなどでコンピュータに慣れ親しむことから始まり、中・高学年になるとローマ字入力を覚え、ワードはもちろん、パワーポイントを使った発表や、ホームページの制作なども学びます。

また、この情報社会を生きる子どもたちにとって情報モラルの学習も大切な課題として取り組まれています。

20年間の推移 児童数・学級数

（各年度の数字は、各年5月1日調べ）

年度	児童数	学級数
平成元年	354	12
平成2年	495	15
平成3年	541	18
平成4年	602	18
平成5年	687	21
平成6年	754	21
平成7年	818	24
平成8年	850	25
平成9年	872	25
平成10年	853	26
平成11年	848	25
平成12年	885	26
平成13年	875	25
平成14年	838	25
平成15年	838	25
平成16年	804	24
平成17年	812	24
平成18年	795	24
平成19年	790	25
平成20年	805	26



開かれた学校を目指して



平素は、本校教育推進に深いご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。桂坂小学校に赴任してまだまだ日の浅い私ですが、今強く感じることは、いかに地域・保護者の皆様に学校教育を支えていただいているかということです。

地域としては各種諸団体が自治連合会のもとにしっかりと組織され、子どもが安心できる、安全な街づくりなど、数多くの取組が進められている他、カザラッカコンサート・お話し会・コーラス・書道・絵画などPTAや地域における活動を通じて、文化・芸術環境の充実が図られています。まさに家庭・地域が一つになった学区であると思います。

そんな中、学校としましては「地域に開かれた信頼される学校づくり」を地域社会と協働して進めなければならないと思っています。

一つは今、学校ではどのようなことをしているのか。どんな教育方針で、どのような子どもを育てようとしているのか、そのために、学校はどのような取組をしているのか、などを保護者の方のみならず、地域の皆様にも伝えていこうと思っています。

また、各種の専門性を有する地域の人材やOBの登用とそれらを活用した教育活動を進めつつ、地域・保護者の方と連携を深め、ともに児童を見守り育てていきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

桂坂小学校校長 山本 泉

地域の方を招いて「感謝の集い」

小学校では毎年、お世話になった地域の方たちを招いて「感謝の集い」を行っています。自治連合会・桂坂少年補導委員会・社会福祉協議会・桂坂消防分団・山の手倶楽部・更正保護司会・地域女性会・クラブ活動コーチ・PTA…ボランティアとして様々な形で子どもたちを見守り育ててくださる方たちに、感謝の気持ちを伝える集いが行われています。それぞれの代表の方たちに子どもたちから感謝の気持ちを込めて絵や手紙が渡される和やかな集いです。



海外・国内の文化を学ぶ

2005（平成17）年度から京都市の全小・中学校に外国語指導助手（ALT）が配置され、英語の授業時間が設けられるようになりました。学年により多少の違いはありますが、外国人の先生から英語のゲームや会話・歌などを楽しく教えていただき、語学の学習と外国の文化に触れる機会となっています。

また、毎年家庭教育学級として、高学年と保護者を対象に朝鮮半島の文化と歴史を学んでいます。

さらに、1996（平成8）年より毎年、桂坂にある国の学術研究機関「国際日本文化研究センター」から、先生を招き、小学校5・6年生がクラスごとに授業を受けています。

2008（平成20）年には6年生を対象に桂坂在住の日本画家・中路融人氏の授業がありました。大きな作品を目の前に並べて、画家ご本人からお話を伺うという贅沢な講義でした。

子どもたちは日頃の生活や授業とはまったく異なる専門的な世界を垣間見ることができ、その後の成長の中で「生きてはたらく力」を養う貴重な体験となっています。

「世界を翔けよう桂坂」と校歌に歌われているとおり、子どもたちは夢や理想に向かって羽ばたくばかりです。

輝け・子どもたち

先生や保護者、地域の大人たちに支えられて行われているこれらの行事は、毎年繰り返し行われる出来事のように見えますが、一人一人の子どもにとって、「ふるさと」桂坂で過ごした記憶として、深く胸に刻まれていることでしょう。

4月

- 始業式
- 入学式
- 1年生を迎える会



「1年生を迎える会」では、6年生と手をつなぎ入場した1年生に、各学年から温かい言葉や歌のプレゼントが贈られます。はじめはドキドキしていた1年生もこれからの学校生活が楽しみになります。



春の遠足は、新林公園 大蛇ヶ池公園 洛西散策の森 唐櫃越えから嵐山…など、周辺の自然を満喫します。

5月

- 春の遠足
- 6年生修学旅行
- 記録会
- 家庭訪問



6年生は広島への修学旅行で、戦争の愚かさと、平和の尊さを学びます。毎年、児童集会で、下級生たちに学んできたことを報告します。

6月

- 休日参観
- 5年生みさきの家
野外学習



5年生は三重県大王崎のみさきの家で野外学習をします。磯観察や、肝だめし、飯盒炊飯、岬の灯台にも登り潮風を満喫します。



宿泊学習に出発する子どもたちを、先生方は、お手製の垂れ幕をもって、見送ってくださいます。

7月

- 自由参観
- 夏季水泳学習
- P T A フェスティバル



水泳の授業では、泳法の習得だけでなく、みんなで大波を作ったり、いかだに乗ったり、リレーをしたり楽しみがいっぱいあります。

8月

- 夏休みプール開放
- ワイワイ広場

9月

- 朝の声かけ運動
- 避難訓練
- 学習発表会



毎年秋から冬にかけて、学年ごとに学習発表会が行われます。いわゆる「学芸会」ですが、演劇や群読、歌、合奏などを交えて発表されます。

10月

- カザラッカコンサート
- 運動会
- 演劇鑑賞



低学年のかわいいダンス、手に汗握る5年生の騎馬戦、涙なしでは見られない6年生の組体操など、運動会は感動の連続です。

11月

- 科学センター学習
- 持久走大会
- 4年生花背山の家
宿泊



4年生は、沖縄のエイサー、花傘音頭、ソーラン節などの民謡を力強く踊ります。

地域の区民運動会でも披露することがあります。

12月

- 西京学童駅伝
- 6年生京都探訪



花背山の家から見た美しい紅葉、楽しいアスレチック、キャンプファイヤーの炎…印象的な場面との出会いがたくさんあります。

1月

- 朝の声かけ運動
- 5年生音楽鑑賞教室

2月

- 校内作品展
- 大文字駅伝
- 5年生スチューデント
シティ学習



スチューデントシティ学習とは、施設の中に再現された街で、消費者役と企業に勤める会社員役、それぞれの立場を体験する学習です。

3月

- 卒業式
- 終了式
- 6年生卒業遠足



卒業していく6年生に「大空に空高く羽ばたいてほしい……」そんな思いを込めて、毎年、卒業式の日にかいのぼりが立てられます。

開催月は2008年度です。
写真は過去10年間のものです。

みなさんに支えられて

地域と結ぶ様々な授業



子どもの記憶に残る20周年

平成17年度より4年間、校長を務めました。4年目の20年度には桂坂学区の20周年、同時に桂坂小学校の創立20周年という節目の時を過ごさせていただきました。地域として盛大に諸行事を進められ、学校の行事も多くの皆様方にご協力をいただきました。これら全てが子どもたちの記憶に残ること、そして私自身も楽しく過ごせたことをうれしく思っています。PTAの記念行事では、いつもに増して子どもたちの喜ぶ顔を願って、地域とともに連携して進められたことを心強く感じました。

着任当初、児童数で10位以内の大規模校であること、校区の広がりや歴史の新しさからも地域が子どもを育むという点において課題が多いのではないかと懸念していました。しかし、早々に取り越し苦労であることが明らかになりました。PTAや教育後援会というまでもなく、自治連合会の各種団体、地域にある諸施設の皆様が小学校教育に理解を示し、協力してくださっている場面に多く出会いました。また、組織的な取り組み、ねらいに即した実践、新しい企画の提案といったことなど、その意気込みをひしひしと感ずることができました。

子どもが手本とする大人はまず家族でしょう。そして幼稚園や保育所、小学校の先生でしょうか。案外気づかないのが近所のおじさんやおばさんの影響力だと思います。子どもたちの記憶の中に地域の取り組み、思いがたくさん蓄積することを願ってやみません。

桂坂小学校前校長 栗田 博

山の手倶楽部の優しい先生たち

山の手倶楽部の方には学校に来ていただき、「昔の遊び方」「昔の暮らし」「日本の風呂敷文化」など実演を交えたお話をしていただいています。子どもたちは、七輪の炭火で焼いたおもちの美味しさをいつまでも忘れられなくなったり、実際にランドセルの代わりに風呂敷を使って登校したりと、大いなる影響を受けています。お礼の気持ちを届けようと、山の手倶楽部の皆さんに自分たちで育てた朝顔の苗をプレゼントしたり、手紙を書いたりという交流も行われています。

こうして、顔見知りになった「山の手倶楽部の先生方」に、登下校中や公園で出会った時など、嬉しそうに笑いかけ、挨拶できる子どもたちも増えてきました。

地域に出かけて「調べ学習」

授業には地域の中で学ぶ「調べ学習」が取り入れられ、イズミヤの見学、消防分団、自治会館、野鳥遊園、乙訓浄水場などの取材にも出かけています。地域の中にある様々な場所を実際に訪れ、そこで仕事をし、活動する人たちに質問し答えてもらうという体験は、子どもたちが社会に目を向け、地域を愛する気持ちを持つようになる大きな一歩といえます。

低学年では、桂坂の「自然調べ」などにも出かけています。ノートと鉛筆を持って桂坂中に点在する公園めぐりをしている子どもたちの姿を見かけた方も多はずです。これも「調べ学習」の一つで桂坂を探索する子どもたちです。

歌や踊りを地域の方に披露

5年生は、毎年ふれあいの里で行われる「ふれあい祭り」に参加し、合唱や笛の合奏を屋外ステージで発表しています。

また、区民運動会では4年生が、よさこいソーラン節・花傘音頭・エイサーなどの演技を披露しています。地域の子もたちが元気に踊る姿を見るのを毎年楽しみにしている方も多いことでしょう。子どもたちにとっても、保護者以外の地域の方たちに練習の成果を見てもらい、地域とのつながりを実感できる貴重な場となっています。

睦みあう上級生・下級生

ガキ大将を先頭に子どもたちが野山を駆け巡る時代は遠く過ぎ去った感があります。異学年の子どもたちが集まって何かをするという取り組みは、地域や学校で意図的に設定されなければ、互いに睦みあえないのが現状かもしれません。

そういう意味では、小学校に登校する朝の「登校班」は、近所の異学年グループとして大切な親睦の場となっています。PTAの地域委員会では、子どもたちが協力し合って楽しく登校できるようにこの登校班を見守り、支えています。

平成18、19年度PTA会長藤本明弘氏は、ほほえましい朝の風景を次のように紹介されています。

先日の朝、ちょうど子どもたちが登校している時に落雷と激しい雨が降りました。ほとんどの子どもたちがびしょぬれになって学校にやってきたようです。そんな中、バス停の屋根の下で高学年の子どもたちが自分達の傘をテントのように広げて、下級生を守っている姿があったそうです。その光景を想像するだけでもとてもほのぼのとした温かい気持ちになります。私たち親の知らないところで子どもたちは知恵を出し合い、気持ちをつなぎ合わせているのです。なんとも素晴らしいことではありませんか。

【桂坂小PTAだより】第72号より

各自治会でも夏休みのラジオ体操や、統一夏祭り、区民運動会などを、地域で子どもたちを育む場として大切に取り組んできました。近所の子どもたちが集まって睦みあう大切な機会となっています。

校区内オリエンテーリング

児童会の取り組みとしては、1年生から6年生まで、異学年の子どもたちが10人程度のグループに分かれ、問題や遊びをクリアしながら校区内を歩いて



廻る「校区内オリエンテーリング」があります。受け身の子どもが多い中、子どもたちの自主性を育てることを目的に始められました。高学年が下級生をいたわり、下級生も上級生を慕うという信頼関係や、同学年同士の友情も深まっていくようです。笑いあり、時にはけんかもありますが、互いに助け合いながら自ら楽しみ、考える子どもたちに育ててほしいと思います。また、このグループでの取り組みを継続的なものにするため、運動会や縄跳び大会などでも一緒に出場できる機会を設けています。

心のバリアフリーを学ぶ

桂坂小学校では「総合的な学習」の時間として、西総合支援学校との交流を行っています。学年や年度によって取り組みは様々ですが、お互いの学校を案内し、歌や工作などを一緒に楽しんだ年度もありました。6年生が文化祭に出演し交流を深めた年もあります。支援学校の子どもたちは、遊びを通じて、大人や日ごろ接している仲間からは得られないエネルギーを同世代の子どもから、もらっているそうです。

子どもたちが、このような交流で人と人とのふれあいの楽しさを感じ、その気持ちをまた将来の生き方に活かしていってくれたらと思います。

「障害」をテーマに学習をする授業では「バリアフリー施設、盲導犬、点字、手話」などについて学んでいます。また、毎年4年生を対象に、視覚障害者の講師を招いて授業が行われています。松永信也さんの授業は、NHKで取材され、子どもたちが深い感銘を受けている様子が放映されました。

授業を終えて僕が帰ろうとすると、子どもたちは「僕が手引きする」「僕も」と寄ってきて一緒に歩いてくれます。

—この子たちは、これから街で目の不自由な人に会ったら、きっと率先して声をかけたり、手引きをしてくれたりするやろう。そういう人口を少しばかり増やすことができたかな—
そんな気持ちになります。

松永信也『見えない世界で生きること』（角川学芸出版）

障害のあるなしに関わらず、誰もが共に同じ地域で寄り添い、助け合いながら暮らせる、よりよい社会を実現するために、心のバリアフリーを学んだ子どもたちは、自分に何ができるか、問い続けることを忘れないことでしょう。

優しさに包まれて

PTAから広がる人々の輪

地域が子どもを育む

住民の生活の場である地域は、子ども、障害者、高齢者などが学び、憩う場であり、人びとが働く場でもあります。地域とはそれゆえ、自然環境を背景に、人びとが暮らし、学び、社交、労働のそれぞれの場面で豊かさを求めて共振し、関係の網の目を紡ぎ出してゆく所ではないかと私は考えています。

この命題を前提に「地域が子どもを育む」内実を解明しようとすれば、答えはシンプルです。それは関係の網の目の中で人びとが、よりよい暮らし、学び、社交、労働の中身を希求し、実現することが大切だという点です。たとえば、母子家庭の子どもの学びが疎かにされている、高齢者が病院に行けない、応益負担に苦しんでいる障害者の状況が放置されている、端的に言えば自己責任、自助の名の下で貧窮を余儀なくされている人びとに無関心である「地域」は、豊かな地域とはいえません。それとは反対に教職員の教育研究の自由と共同が保証され、父母や地域住民との連携も重視されている学校では、子ども同士の豊かな学び合いを軸にした優れた教育実践が生まれているにちがひありません。

それぞれの力と個性が最適な方法で結びつく。地域を織りなしているすべての人びとが主人公たるに相応しい実質を共同の力で実感できる、そんな桂坂であり続けて欲しいと願っています。

平成15、16、17年度PTA会長 有賀郁敏



PTAフェスティバル

PTAフェスティバルは、PTA会員の相互交流を図るという目的の他に、PTAクラブ活動の普及

の場となること、学習することにより活動の中身を豊かにすること、地域諸団体との連携の環を強化することなどを目的に、2005（平成17）年に始まりました。当初は大人中心のフェスティバルでしたが、年々子どもたちも参加できる行事となり、今ではゲームあり、ダンスあり、花火ありのお祭り色の強いイベントになっています。

2008（平成20）年には、桂坂小PTA各委員会が中心となってリサイクル工作やお買い物ゲームコーナーをつくり、大枝中吹奏楽部の演奏、大枝中PTA、西総合支援学校の展示を始め、ひなたぼっこ、少年補導委員会、社会福祉協議会、地域女性会の諸団体が参加して、子どもたちとのふれあいを中心に開催されました。

子どもたちがたくさんの方々に見守られているということは、本当に喜ばしいことです。今後ともこのPTAフェスティバルがPTAだけでなく地域の方々にも一緒に楽しんでいただけるように企画、運営していけたらと思います。

桂坂・音楽の集い カザラッカコンサート

2008（平成20）年にカザラッカコンサートは、第16回を迎えました。企画運営をPTA本部が行い、各委員会はスタッフとして会場設営や、案内・受付などはもちろん、舞台転換や照明音響の操作、控え室での出演者の接待などの役割を担っています。この大きな行事を成功させるために、PTA会員の総力が結集されているといえます。京都市立音楽高校のオーケストラをバックに合唱する子どもたちの歌声が響くこのコンサートは、ふるさとのあたたかい記憶として子どもたちの心に残るに違ひありません。

地域の方に月々ご協力いただいている古紙回収の収益金は、このコンサートを支える大きな源ともなっています。開催日時はポスター等で毎年お知らせしますので、地域の方もぜひご鑑賞ください。

子育て・教育フォーラム

「子育て・教育フォーラム」は、PTA主催で、年2回催されているものです。講演、対談、パネルディスカッションなどスタイルにこだわらず、その時のテーマにふさわしい形で行われます。時には、いくつかの分科会に分かれて先生とテーブルを囲んで歓談することもあります。

親にとっては、担任の先生以外のお話をじっくり

聞ける貴重な機会であり、先生にとっては、学校の取り組みを詳しく発信できる場となっています。

また、親同士の本音の対談などでは、得るものが多く、自分の子育てを振り返る機会になっています。

ふれあい遊びとおぜんざいの会

めんこ、コマ回し、けん玉、お手玉、おはじき、だるま落とし、折り紙、百人一首、囲碁・将棋…

山の手倶楽部の皆さんは子どもたちと遊ぶのが本当に上手です。「私はおてんばだったの」「ガキ大将やったんやで」などといいながら、童心に返って子どもたちと遊んでくださいます。遊ぶといえば電子ゲームに依存しがちな今の子どもたちにとっては、手先を使い、相手の出方に注目し、声を掛け合い、力加減や工夫の必要な昔の遊びは新鮮そのものです。

P T Aと山の手倶楽部で始めたこの企画に、今では地域女性会が加わり、子どもたちは羽子板やお茶席体験、新聞紙野球などで一緒に遊んでいます。遊び終わった後は、温かいおぜんざいを皆で食べて、心もおなかもほっかほかのひと時を過ごしています。また、19年度からは、子どもたちが「ふれあい遊び」で地域の方たちと交流している間に、保護者は「子育て・教育フォーラム」に参加できるように、同日開催となっています。まさに、地域とP T Aと学校が協同して開催する行事です。



もっともっと顔見知りをつくろう

子どもをつつむ諸団体



心のつながりは気持ちのいい挨拶から

——朝の声かけ運動

小学校の登校時間。正門付近に「おはようございます」と学校の先生方の声とは違う挨拶が響き渡ります。山の手倶楽部や女性会の皆様の元気な挨拶に驚き、そして少しはにかみながら挨拶を返す子どもたち。

これは、小学校のP T A行事の一つとして定着した「朝の声かけ運動」のひとコマです。

「朝の声かけ運動」は夏休みや冬休みが終了した、学校が始まる最初の1週間に行われます。山の手倶楽部や女性会等の地域の皆様の協力のもとで開く行事は「カザラッカコンサート」や「ふれあい遊び」など幾つかあり、その一つひとつは子どもたちが地域の大人の方とふれあい学ぶことのできる大切な機会となっています。

この「朝の声かけ運動」は20分ほどで終わってしまうものですが、とても意義のある運動となっています。

気持ちのいい挨拶をしてもらった子どもたちはその日いちにちを素敵な気持ちで過ごすことができ、挨拶することのすがすがしさを感じてくれているはずです。また、気持ちのいい挨拶はすべてのコミュニケーションの最初の一歩であり、その輪を広げることが人の和、地域の和を広げることにもつながっていくことでしょう。

桂坂のいろいろな場で子どもたちと地域の皆様との気持ちのいい挨拶が聞けるように、さらに続けていきたい行事の一つです。

平成20、21年度P T A会長 窪田知史

年代を超えた母達の集い

地域女性会では、「桂坂の子どもたちをもっと知りたい」「地域の大人はどのような関わりを求められているのか」「最近の子育ての様子は？」などの率直な疑問をPTAになげかける懇話会をもちました。この交流をきっかけに、その後「地域で子どもを育もう」という熱意あふれる桂坂の諸団体がさらに交流を深め、お互いの立場を思いやるよい関係を築いてきました。

子どもたちにとって地域に顔見知りの大人が増え、温かい人々のつながりを感じながら育つことを何より願う諸団体の活動が桂坂の歴史に刻まれつつあります。

絵手紙講習会

「下手でいい、下手でいい」を合言葉に絵手紙ブームが静かに続いています。地域女性会では子どもたちにも、絵手紙の楽しさを体験させてあげようと、親子で参加できる講習会を行いました。季節の野菜や果物、草花をテーブルに置き、みんなで触ったり、匂いをかいだりしながら自由に筆を運びます。子どもの新鮮な発想に驚かされながら、笑い声の絶えない講習会になりました。

パソコンの先生は子どもたち！？

桂坂小学校のパソコンクラブの子どもたちが地域女性会の人にパソコンを教える機会がありました。

生涯教育の一環ですが、日頃教えてもらうばかりの子どもたちが先生となって、ちょうど暑中見舞いの時期ということもあり「暑中見舞いのはがき」と実用的な「名刺」を作りました。子どもたちの丁寧な説明を聞きながら、暑いのも忘れて一生懸命パソコンの操作を覚えようとする大人のほほえましい姿がそこにありました。子どもたちにとって、とてもいい経験になりました。

子どもボランティア体験隊

社会福祉協議会では、小学生を募り様々なボランティアに挑戦する「子どもボランティア体験隊」という取り組みを行っています。

「ふれあい祭り」のお手伝いでは、景品係を経験させてもらい、障害のある子どもたちとの交流を目的としたボーリング大会、バーベキュー大会などで

は、ごく自然に遊びに行く感覚で参加しています。また、桂坂社会福祉協議会主催の敬老会では、お弁当を運ぶような簡単なお手伝いですが、自分たちにできることを探して誰かの役に立つ喜びを感じているようです。子どもの頃から、様々な人たちとの出会いを経験できるよい機会となっています。

子どものための様々な催し

アンテナをしっかりと張り巡らしておけば、自治会の回覧板などから、子どもの参加できる催しがいろいろあることに気づきます。

桂坂少年補導委員会の「わんぱく塾」では、地域の方が、キャンプやもの作り、クッキングなどの様々な催しを企画して下さり、毎回多数の参加があります。

柄本憲秀少年補導委員会桂坂支部支部長は、子どもたちとの活動について、次のように述べられています。

合言葉は「わんぱくでもいい、心の優しい子どもに育って欲しい」

少年補導は、年間の様々な活動を通し、子どもたちに互いに助け合い競い合う友情、様々な好奇心、楽しい体験、やり遂げた達成感、自然の中の仲間との集団生活の自立・共存・助け合い・整理整頓・創意工夫など学んでもらうことを主眼として活動しています。そして私たち少年補導委員はこれらの行事で常に、子どもたちから、彼ら以上に多くのものを貰い学んでいます。

20周年の節目に、更に大きい愛情と厳しさで、子どもたちの健全育成のため全力で活動を行ってまいりたいと思っています。今後とも、桂坂の皆さんのご支援ご協力をお願いします。

「桂坂の子ども達と共に」より

他にも京大桂キャンパスの「科学実験教室」、野鳥遊園の「ものづくり体験」、授産園の「夏休み親子陶芸教室」など、この地域ならではの企画もあります。児童館主催の映画会や、駄菓子屋さんなど、子ども向けの催しも年間にいくつもあります。こうした情報を積極的に集めて、できるだけ多くの経験を積むことを勧めたいですし、子どもにとって、関わってくれる顔見知りの大人がたくさんいる地域となることを願ってやみません。



明日に^{はば}翔たく大枝中学校

地域にささえられて

大枝中学校の生徒たちはよく挨拶をしてくれます。学習に意欲的に取り組んでいるし、行事にも積極的に取り組んで盛り上がりを見せてくれます。部活動も頑張っています。さまざまな課題もちろんありますが、全般的にいい状態で学校生活を送っています。

「確かな学力 心身の豊かさ 創造する力」の育成を学校教育目標に掲げ、その実現に向けて日々努力を重ねています。

今年は創立から21年目となります。これまで諸先輩方が蓄積してこられた本校の教育を基盤にしながら、知徳体のバランスの取れた生徒を育成するために、さらにグレードアップした学校に成長させていきたいと考えています。

大枝中学校校長 橋本秀明



大枝中学校は1989（平成元）年4月、大枝小学校区と桂坂小学校区の2学区を併せた中学校として開校しました。桂坂小学校の北に位置し野鳥遊園と隣接した静かな自然の中にあります。

地域の中の中学校として今年度は533名の生徒でスタートしました。良い伝統を受け継ぎ、新しい試みに挑戦しながら地域に支えられ、落ち着いた環境の中で生徒たちは通学しています。



生き方探究・チャレンジ体験

「生きる力」を育むために、集団や社会の一員としての自己の在り方を見つめ、自らの生き方を考える目的で職場体験や勤労体験をする、いわゆる「キャリア教育」を2年生対象に5日間実施しています。

20年度に協力を得た桂坂地域の事業所は、桂坂保育所・東桂坂保育所・桂坂児童館・ふれあいの里授産園・デイリーカナートイズミヤ・十兵衛・レストラン赤おに・美容室 HAIR'S 桂坂店の8施設で職場体験しました。事業所の方々にあたたかく迎えられ、子どもたちは、学校や家庭では日頃できない体験や人々とのふれあいに期待で胸を膨らませ、また、働く人たちの姿と直に接することができて、ちょっぴりおとなになって帰ってきます。



形成の糧ともなる書物が毎年「桂坂教育後援会」から寄贈されています。

地域の施設での体験学習

1年生も、クラス単位で体験学習をします。桂坂保育所・東桂坂保育園・沓掛寮・ひまわりの里・シオンの里に分かれてグループを組み活動しながら、相手に喜んでもらうために色々な工夫を凝らし、力を合わせて取り組むことの意義を学びます。

授業に参加する地域の人たち

近年、子どもたちは少子化・核家族の中で育ち、異年齢の子どもとのふれあいが少なくなりつつあります。そのために学校では、家庭科の授業の中に「保育の時間」が設けられています。

桂坂保育所の子どもたちを学校に迎え、地域のお話のサークルの方にも参加してもらって保育について学ぶ試みが行われています。小さな子を自然に膝の上に抱っこしている生徒もいて微笑ましいひとときです。



本の世界と向き合う

ネットの普及もあって子どもの活字離れが指摘されるようになって久しいですが、この年代の子どもたちが書物を手にしてじっくり本の世界と向き合うことは、自分を客観的に見つめなおす意味でも大切なことです。中学校では「朝の読書」に取り組み、生徒たちが本を手にする時間を作っています。この取り組みは1日の学校生活を始め、授業を受ける前の心の準備体操にもなっています。この貴重な人間

クリーンデーへの参加

桂坂恒例の春と秋の「統一クリーンデー」は、日頃地域の方々に支えられることの多い中学生が積極的に参加できる催しです。子どもたちは家庭にあっては地域の中で生活する一人として参加し、学校では、クリーンデーの日が一番近い平日に、学校の周りを丹念に清掃しています。

開かれた学校をめざすPTA活動

保護者ばかりではなく地域の方にも気軽に中学校に足を運んでいただくために、開かれた学校を目指してPTAの企画で「地域・家庭教育学級」を開催しています。毎年12月には「寄せ植え教室」を開催し、たくさんの地域の方が参加され好評です。また、地域の皆様にも協力していただき、講演会などの催しを企画しています。回覧板などを通じて案内していますが、今後とも、たくさんの地域の方に足を運んでいただけるように工夫していきたいと考えています。また、足を運んでいただいたことをきっかけに、生徒たちの様子も見ていただき、地域の中学校として身近な存在となることを目指しています。



地域と連携を深める3校のPTA

大枝中学校区の小学校2校のPTA、学校、自治連合会、少年補導、児童委員、保護司の皆さんと連携して「児童、生徒の健全育成」を目的に「大枝中学校区地域生徒指導連絡協議会」（地生連）を結成して活動しています。3校の子どもたちの現状を地域の方々に知っていただき、子どもの健全な育成をサポートするもので、年に2回の『地生連だより』を発行しています。また、3校のPTA合同で行う地域のパトロールや親睦会も連携には欠かせません。

働く父母と共に命を育む



みんなあつまれ！かざらっこ

1999（平成11）年4月、公設民営の京都市桂坂保育所・桂坂児童館が開設されました。

京都市は「京都市児童育成計画」の方針に沿って、住民と行政が手を取りあって進める市民参加型の「ワークショップ手法」を活用し、地域における子育ての拠点となる様、保育所と児童館が合築整備されました。その際公募により愛称「かざらっこ」も決定しました。

合築の良さを生かした、思春期を見通した児童育成の拠点となっています。かざらっこの名のごとく西山からの吹き抜ける風を受けつつ、ラッコの親子の様に温かくほのぼのとした親と子の子育て拠点「かざらっこ」として、地域に親しまれる様々な取り組みが行われています。

京都市桂坂保育所

京都市内の大規模住宅用地として人口が急増している西京区の桂坂において、住民の強い要望により京都市が公設としては18年ぶりに新設し、社会福祉法人の京都社会福祉協会が運営している保育所です。産休明けの2ヶ月から就学前の児童が対象で、12時間保育（午前7時10分～午後7時10分）、定員は90名です。

恵まれた自然環境を生かし、春は塚原名産の竹の子掘り、夏は野鳥遊園の裏山登り、秋は大枝の柿狩り、冬は大根掘りに行きます。それらを使ったつるし柿、切干大根作り等、家庭的な雰囲気大切に、共に生き、共に育つをモットーにしています。

通常の保育の他、地域の子育て支援ステーション

として、登録制の「赤ちゃんひろばin桂坂」、はじめてお父さん、お母さんになる人を対象にした「プレママ・プレパパ体験」、2歳児対象の「ペンギンフレンズ」などが実施され、保護者同士のつながりも大切にしています。

地域に還元、地域に開かれたところとして、保育以外に地域の人に利用していただくために、土曜日には園庭を開放しています。

また、思春期教育では家庭科の授業の一環として大枝中学校との交流学习もあります。「子育てを一緒にやっていければいいと思います」と藤村所長のお話です。



京都市桂坂児童館

児童館は、子どもたちに遊びの機会を提供します。0歳から18歳までが利用でき、遊びや教室、行事などを通して友達との触れ合い、助け合う心、工夫する力を育てています。

主な取り組みとして「学童クラブ」があります。両親の共働き家庭、母子・父子家庭、その他の事情で昼間留守になる家庭の児童を保護育成しています。

1年生から3年生の児童が対象で、放課後の子どもたちの生活の場として家庭的な暖かい雰囲気大切に、活動しています。登録制で申し込みが必要ですが、プログラムが組まれていて下校後も、子どもたちが有意義に過ごせるように指導し、保護者が安心して、仕事と子育てを両立できるように支援しています。

児童館では、学童クラブのない午前中の時間帯を使って、様々な取り組みが行われています。乳幼児の子どもをつれて遊びに来ることができる「こりすひろば」（木曜日）「こあらひろば」（金曜日）や、登録した幼児と保護者が、歌や工作、水遊びなどを楽しむ「ラッコクラブ」（火曜日）などの事業を行っています。就園前の親子が遊びに来て、他の親子と交流できる貴重な機会になっています。

この他、クリスマス会、児童館まつりや駄菓子屋

さんのスタッフとして小学校高学年の子どもたちを中心に活動する「高学年の活動」をはじめ、中高生から募集したジュニアリーダーが、ボランティア活動や「中高生と赤ちゃんとの交流事業」の活動をしています。

「中高生と赤ちゃんとの交流事業」は、京都市の指定事業で、講座や赤ちゃんとの交流を通して「命の尊さ・愛おしさ」を感じとり、将来子育てや命を育むための予備体験をしています。

東桂坂保育園

2006（平成18）年4月に開設された桂坂学区東部にできた二つ目の保育施設です。社会福祉法人洛和福祉会を母体とした京都市の認可保育園で、保育の理念には「保育にあたっては、『乳幼児の最善の利益』を柱として子供たちが主体的に生活し遊べる環境を保障」し、「保護者も一緒に人として育ちのプロセスを確認し合い、親にとっても安心できる場となるようにする」（東桂坂保育園理念より抜粋）ことをかかげています。



開園時間は午前7時～午後7時まで、定員は100名、0歳～5歳就学前の幼児を対象に通常保育のほか、一時預り保育、障害児保育もおこなっています。建物は木のぬくもりや光を取り入れた明るく安らぎを感じるつくりで、保育はいろんな公園にでかけ、桂坂の自然を満喫しながら、戸外での遊びを十分に楽しんでいます。

園内でさくらんぼ・うめ・もも・りんご・グミ・金柑などの果樹や野菜を植え、世話をしながら身近で大きくなっていく植物（食べ物）の様子を観察し、とれた実は単に食べるだけでなく「梅干」「梅ジュース」「梅ふりかけ」に加工するなどクッキング活動を通して食べ物の大切さを学ぶ、「食育」にも力を注いでいます。

地域との交流として、大枝中学の「総合学習」や「チャレンジ体験」があります。将来のお父さん、お母さんになったつもりで接する中学生を園児たちは、大きなお兄さん、お姉さんと呼んでふれあいを楽しんでいます。



子育て支援・桂坂子育て応援サロン

乳幼児期から就学前の子どもたちを育てている親子を対象に「子育て支援・応援サロン」が2009（平成21）年5月より始められました。発達に少し心配がある、障害があるなど、心に抱く親子の不安を少しでも和らげることができる場が必要ではないかと、民生児童委員を中心とした各種団体が、出会いの場を提供し、時には子育ての先輩として、時には専門家による相談などで、子育てのお手伝いを行っています。

桂坂児童館で、毎月第3月曜日の午前10時30分から11時30分の間、開催しています。ひとりで悩まず、みんなで楽しく子育てができるような地域を目指しての事業です。

